

## 道徳科における探究力と省察性の育成

研究代表者 和歌山大学教職大学院 中山 眞弘  
共同研究者 和歌山大学教育学部附属小学校 糸我 直人  
和歌山市立岡崎小学校 豊田 麗香・寺井 隆文  
和歌山市立松江小学校 西村 里美  
和歌山市立小倉小学校 宇治田 乃

### 1. はじめに

平成 27 年 3 月に小学校学習指導要領、中学校学習指導要領等の一部改正が行われ、従来の「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」（以下、「道徳科」とする）として新たに位置づけられ、今年度から小学校ではすでに教科として実施されている。これは、これまでの道徳の時間に見られてきた課題を改善するために改訂されたもので、授業方法では「単に読み物の登場人物の心情を理解させるだけなどの型にはまった」（平成 25 年「道徳教育の充実に関する懇談会」）授業から「考え、議論する道徳」への変換が求められている。そのためには、道徳科の目標にある「自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める学習」をすすめていくことが重要で、このことを意識した授業改革をしていくことが必要である。

そこで本研究では、道徳科における「探究力」と「省察性」を育む授業づくりをめざし、授業改善はもちろんのこと、単元構成を意識したカリキュラム設計や子どもたちの自我関与に寄与する振り返りの在り方などを研究する。

### 2. 本研究の目的と概要

よりよく生きるための基盤となる道徳性を育成するためには、よりよい自己の生き方について探究する「探究力」と自ら探究を調整・改善しながら進めるための「省察性」を育む必要がある。

#### 【探究力を育むために】

他教科他領域と関連した単元を構成し、単元に関わる道徳的問題に気付き、課題を設定・共有化することは、ねらいとする道徳的価値を一人一人が自分の問題として捉え、自己のよりよい生き方について追求しようとする「探究力」につながる。また、一つの道徳的テーマについて、複数の内容項目複数時間扱いや同一内容項目複数時間扱い等、単元形式による道徳科授業にすることにより、多面的・多角的に考えようとしたり、道徳的価値に関わる考え方を深めたりすることで、問題場面に出合った時は、様々な道徳的価値を基に考え、その状況にふさわしい答えを導き出すことができる。

#### 【省察性を育むために】

道徳科の 1 時間毎と単元の途中での定期的なふりかえりを行う時間を設ける。道徳科の授業では、「今のわたしはどうだろう…」「これから…」等、これまでの自分とこれからの自分のよりよい生き方について考えることができるようにする。単元の終末では、学習課題にこれか

らの自己の生き方について自分なりの納得解がもてるようにする。

### 3. 研究内容

#### 3.1. 授業実践

本研究のテーマである「探究力」と「省察性」を育むため、総合単元的にカリキュラムを組み授業実践を行った。その授業実践に向け、「考え、議論する道徳」をめざし、研究授業の事前・事後に授業研究を行った。以下にその授業実践を示す。

【事前授業】平成 30 年 9 月 25 日（木）6 限目

学年・教科領域： 第 4 学年 道徳科

教材名：「温かい言葉」（出展：学研 「みんなの道徳 4 年」）

本時の目標：みんなの気持ちを考えることの大切さについて自覚を深め、進んで親切にしようとする心情を育てる。

展開：

学習活動・内容
①今までに困っている人に親切にした経験について話し合い、学習課題を設定する 親切にするときに、大事にしなければならないことは何だろう
②「温かい言葉」を読み、話し合う ・心に残った場面について感想を話し合う ・お兄さんはどんな気持ちで男の子に謝ったのでしょうか ・男の子はどんな気持ちでお兄さんに「ありがとう、お兄ちゃん」といったのでしょうか ◎ 2人が交わした温かい言葉は、どのような気持ちから生まれたのでしょうか
③これまで自分がしてきた親切についてもう一度見つめ直し、自分の生活について生かしていきたいことを考える

【研究授業】平成 30 年 10 月 27 日（土）2 限目

（詳細は 3.2 にて記述）

【事後授業】平成 31 年 1 月末 実施予定

#### 3.2. 研究授業の内容

【研究授業】平成 30 年 10 月 27 日（土）2 限目

学年・教科領域： 第 4 学年 道徳科

教材名：「なみだとえがおの「なでしこジャパン」」（出展：学研 「みんなの道徳 4 年」）

本時の目標：信頼し合える仲間の素晴らしさに気づき、仲間同士で助け合おうとする心情を養う。

展開：

学習活動・内容
① 8 の字跳びをしているときのことを振り返り、学習課題を設定する 心を一つにするためには、どうすればいいだろう

② 「なみだとえがおの「なでしこジャパン）」を読み、話し合う

- ・ 心に残った場面について感想を話し合う
- ・ 泣き崩れるなでしこジャパンの選手たちはどんな気持ちだったでしょう

◎ なでしこジャパンのみんなをさわやかなえがおにしたものは何だろう

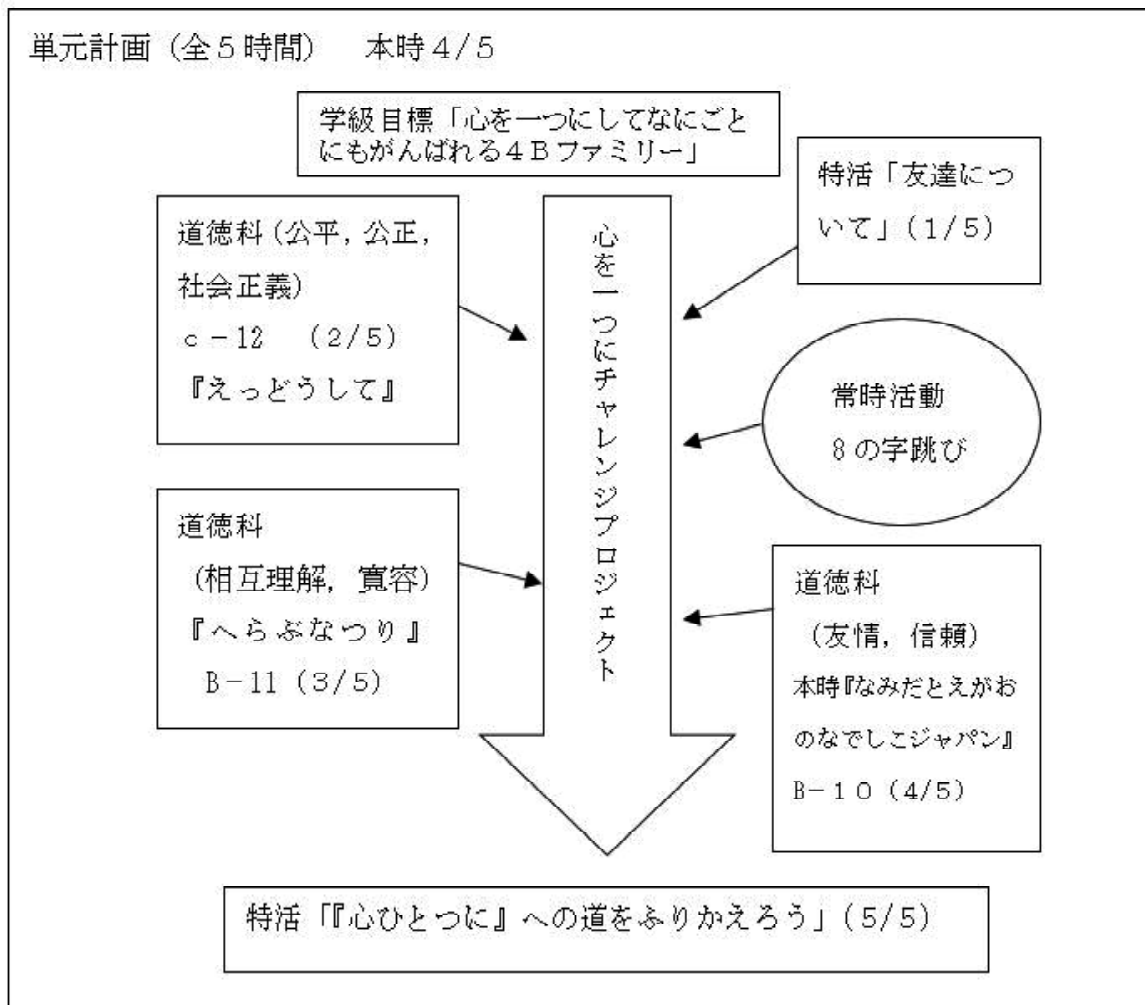
- ・ 最高の仲間とはどのようなものだろう



③ 自分たちが「8の字跳び」に取り組んでいるようすをスライドショーで見ながら、本時の振り返りをする

### 【研究授業の単元計画】

子どもたちが4月に話し合って作った学級目標『心をつにしてなにごともがんばれる4Bファミリー』を軸に、『心をつにチャレンジプロジェクト』という単元テーマを設定した。学級目標やクラスで取り組んでいる8の字跳びと関連付けながら、「友達との関係の在り方」について複数価値多時間で道徳の時間に追求することで、一人一人が自分の中にある「友だちとの関係の在り方」について、様々な視点から見つめ直すことができると考える。



## 【研究授業の板書】



### 4. 成果と課題

今年度、道徳が教科となり「道徳科」として小学校ではじめて施行された。実際、評価も含め手探り状態で進めていく中、今回行った研究では、「考え、議論する道徳」の授業を目指し取り組んできた。授業づくりでは、「発問」の開発はもちろん、展開の工夫も含め研究を重ねてきたが、中でも総合単元的にカリキュラムを構成した取組は、日常生活と道徳の資料の関係性が親密になり、子どもたちにとっては「探究力」や「省察性」を育むことに効果があったと言える。

今後は、道徳の授業の工夫改善はもちろんのこと、学校生活における道徳教育をどのようにすれば効果的に進めることができるのか、そのための方法や工夫点を考え、総合単元的に取り組んでいる道徳授業を一層効果的に進めていくことを研究することが必要であろう。そのためには、単元計画のスパンを短期ではなく、年間を通した長期の視点で計画し取り組んでいくことが重要だと考える。